

ミニトマト 使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月13日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	疫病	灰色 かび病	菌核 病	葉か び病	すす かび病	うどん こ病	輪紋 病	斑点 病	その他 病害虫							
モンカット水和剤									苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500~1000倍 (3ℓ/m ²)	は種時~子葉展開時	1回	土壌灌注	フルトラニル	2回以内(但し、種子粉衣は1回以内、土壌灌注は1回以内)	7
									種子重量の0.5~1.0%	は種前	1回	種子粉衣				
ダコニール1000	●	●		●	●	●	●	●	炭疽病、褐色輪紋病	1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	TPN	2回以内	M05
アミスターオブティフロアブル	●	●		●	●				炭疽病	1000倍 (100~400ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アゾキシストロビン	2回以内	11
														TPN	2回以内	M05
プロポーズ顆粒水和剤	●									1500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内	40
														TPN	2回以内	M05
ベトファイター顆粒水和剤	●									2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シモキサニル	3回以内	27
														ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内	40
ダイナモ顆粒水和剤	●									2000~5000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アミスルブロム	4回以内	21
														シモキサニル	3回以内	27
ランマンフロアブル	●									1000~2000倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	シアゾファミド	4回以内	21
リドミル銅水和剤	●									400~600倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	塩基性塩化銅	-	M01
														メタラキシル	4回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)	4
レーバスフロアブル	●									2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンジプロパミド	3回以内	40
フルピカフロアブル		●								2000~3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	メパニピリム	4回以内	9

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> ミニトマト

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	疫病	灰色 かび病	菌核 病	葉か び病	すす かび病	うどん こ病	輪紋 病	斑点 病							
カンタスドライフロアブル		●	●	●					1000~1500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ボスカリド	3回以内	7
トップジンM水和剤		●	●	●					1500~2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	チオファネートメチル	6回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)	1
ゲッター水和剤		●	●	●					1500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ジエトフェンカルブ	3回以内	10
								チオファネートメチル					6回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)		
ベルコート水和剤		●		●					6000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	イミノクタジンアルベリン酸塩	2回以内	M07
サンヨール		●		●				ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類	500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	DBEDC	4回以内	M01
					●				500~700倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布			
カリグリーン		●		●				さび病	800倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	-	NC
					●				800~1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ハーモメイト水溶剤		●						さび病	800倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	- <野菜類該当>	NC
					●				800~1000倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ロブラール水和剤		●							1000~1500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	イプロジオン	4回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)	2
						●	●		1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
		●								200g/10a (5ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	常温煙霧	イプロジオン	4回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内) <適用場所：温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所>
トリフミン水和剤				●					3000~5000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	トリフルミゾール	5回以内	3
					●	●			3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布			
パンチョTF顆粒水和剤									2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シフルフェナミド	2回以内	U06
					●			トリフルミゾール					5回以内	3	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> ミニトマト

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	疫病	灰色 かび病	菌核 病	葉か び病	すす かび病	うどん こ病	輪紋 病	斑点 病							
Zボルドー	●						●		400～600倍 (100～300ℓ/10a)	-	-	散布	塩基性硫酸銅	-	M01
					●				500倍 (100～300ℓ/10a)	-	-	散布			
イオウフロアブル						●			500～1000倍 (100～300ℓ/10a)	発病前～発病初期	-	散布	硫黄	-	F:M02 I:UN
								トマトサビダニ	400倍 (100～300ℓ/10a)	発生初期	-	散布			
リゾレックス水和剤								苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍 (3ℓ/m ²)	は種時	1回	土壌灌注	トルクロホスメチル	1回	14
バンタック水和剤75								苗立枯病 (リゾクトニア菌)	種子重量の0.4%	は種前	1回	種子粉衣	メプロニル	2回以内(但し、種子への処理は1回以内、土 壌灌注は1回以内)	7
									750～1500倍 (3ℓ/m ²)	は種時～子葉展開時	1回	土壌灌注			
アフェットフロアブル		●	●	●	●		●		2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペンチオピラド	3回以内	7
						●			2000～4000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
ファンタジスタ顆粒水和剤		●	●	●	●		●		2000～3000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリベンカルブ	3回以内	11
ベルコートフロアブル		●		●	●	●	●		4000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	イミノクタジナルベ リン酸塩	2回以内	M07
プロパティフロアブル						●			3000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリオフェノン	2回以内	50
ドイツボルドーA	●			●			●		500倍 (100～300ℓ/10a)	-	-	散布	塩基性塩化銅	-	M01

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

ミニトマト に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月13日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ							
ベストガード粒剤	●	●								5g/培土L	は種時又は鉢上げ時	1回	育苗培土混和	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A
	●	●								1~2g/株	育苗期	1回	株元処理			
	●	●			●					セル成型育苗トレイ1箱または $\text{ハ}^{\circ}\text{-ハ}^{\circ}$ - ホット1冊(30×60cm、使用土壌約 1.5~4L)当り50g	育苗期後半	1回	散布			
	●	●								1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和			
					●					2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和			
ダントツ粒剤	●	●								1g/株	育苗期	1回	株元処理	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
			●							1g/株	育苗期後半	1回	株元処理			
	●	●	●		●					1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和			
	●									1~2g/株	定植後 (但し、収穫前日まで)	3回 以内	株元散布			
ダントツ水溶剤	●	●								2000~4000倍 (100~300 μ l/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
					●					2000倍 (100~300 μ l/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
ネマトリンエース粒剤									ネコブセンチュウ	15~20kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	ホスチアゼート	2回以内(但し、定植前の土壌混和は1回以内、土壌灌注は1回以内)	1B
モスピラン粒剤		●								1g/株	定植前日~定植当日	1回	株元散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
	●	●							トマトハモグリバエ	1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
	●									0.5g/株	生育期 (但し、収穫前日まで)	3回 以内	株元散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ミニトマト

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病虫害										希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ	その他 病虫害							
モスピラン水溶剤	●	●	●								2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
アドマイヤー1粒剤		●									0.5~1g/株	育苗期後半	1回	株元散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	4A
	●	●									1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
ボタニガードES		●									1000~2000倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期	-	散布	ボーベリアバシ アーナGHA	-	UNF
	●	●	●						コナガ、ハダニ類	1000倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期	-	散布	(殺虫殺菌剤)			
									うどんこ病	1000倍 (100~300ℓ/10a)	発病前~発病初期	-	散布	<野菜類該当>			
アグロスリン水和剤	●										2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シベルメトリン	2回以内	3A
アディオオン乳剤	●										2000~3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペルメトリン	4回以内(但し、株元散布は1回以内、散布及び噴射は合計3回以内)	3A
コルト顆粒水和剤	●	●									4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリフルキナゾン	3回以内	9B
チェス顆粒水和剤	●	●									5000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピメトロジン	4回以内(但し、育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)	9B
バリアード顆粒水和剤	●	●									4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	チアクロプリド	3回以内	4A
ベストガード水溶剤	●	●	●							クロバネキノコバエ類	1000~2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A
ウララDF	●										2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フロニカミド	3回以内	29
		●		●							2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ミニトマト

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病害虫										希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ	その他 病害虫							
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤										カメムシ類	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ジノテフラン	5回以内(但し、培土混和及び灌注は合計1 回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植 時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の 株元散布は合計2回以内)	4A
		●									2000~3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
											100倍 セル成型育苗トレイ1箱または ^ハ - ^ハ - ^ホ ット1冊(30×60cm・使用土壌約 1.5~4.0ℓ)当り0.5ℓ	鉢上時又は定植時	1回	灌注			
サフオイル乳剤	●									ハダニ類	300~500倍 (100~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	調合油	-	NC
		●							●	チャノホコリダニ、う どんこ病	300倍 (100~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布			
クリアザールフロアブル		●									2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピロメシフェン	2回以内	23
									●		2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
クリアオール水和剤		●		●			●		●		2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アクリナトリン	2回以内	3A
														散布	スピロメシフェン	2回以内	
アーデント水和剤				●			●				1000倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アクリナトリン	2回以内	3A
マッチ乳剤							●				2000~3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ルフェヌロン	2回以内 (昆虫成長制御剤)	15
								●			3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
		●	●						●		2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
アニキ乳剤							●	●	●	ハモグリバエ類	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内	6
		●		●							1000~2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ミニトマト

【令和6年11月13日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ								その他 病害虫
ベリマークSC	●	●	●		●					トマトキバガ	400株当り25ml 400株当り10～20ℓ (1株当り25～50ml)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	シアントラニリブ ロール	4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)	28
		●									400株当り25ml 400株当り20～200ℓ (1株当り50～500ml)	定植直後	1回	株元灌注			
ディアナSC		●									2500倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
			●		●		●	●	トマトキバガ	2500～5000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
モスピラン顆粒水溶剤	●	●	●								2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
フェニックス顆粒水和剤							●	●			2000～4000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルベンジアミド	2回以内	28
									トマトキバガ	2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
イオウフロアブル									●		400倍 (100～300ℓ/10a)	発生初期	-	散布	硫黄	-	I:UN F:M02 (殺虫殺菌剤)
									うどんこ病	500～1000倍 (100～300ℓ/10a)	発病前～発病初期	-	散布				

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。